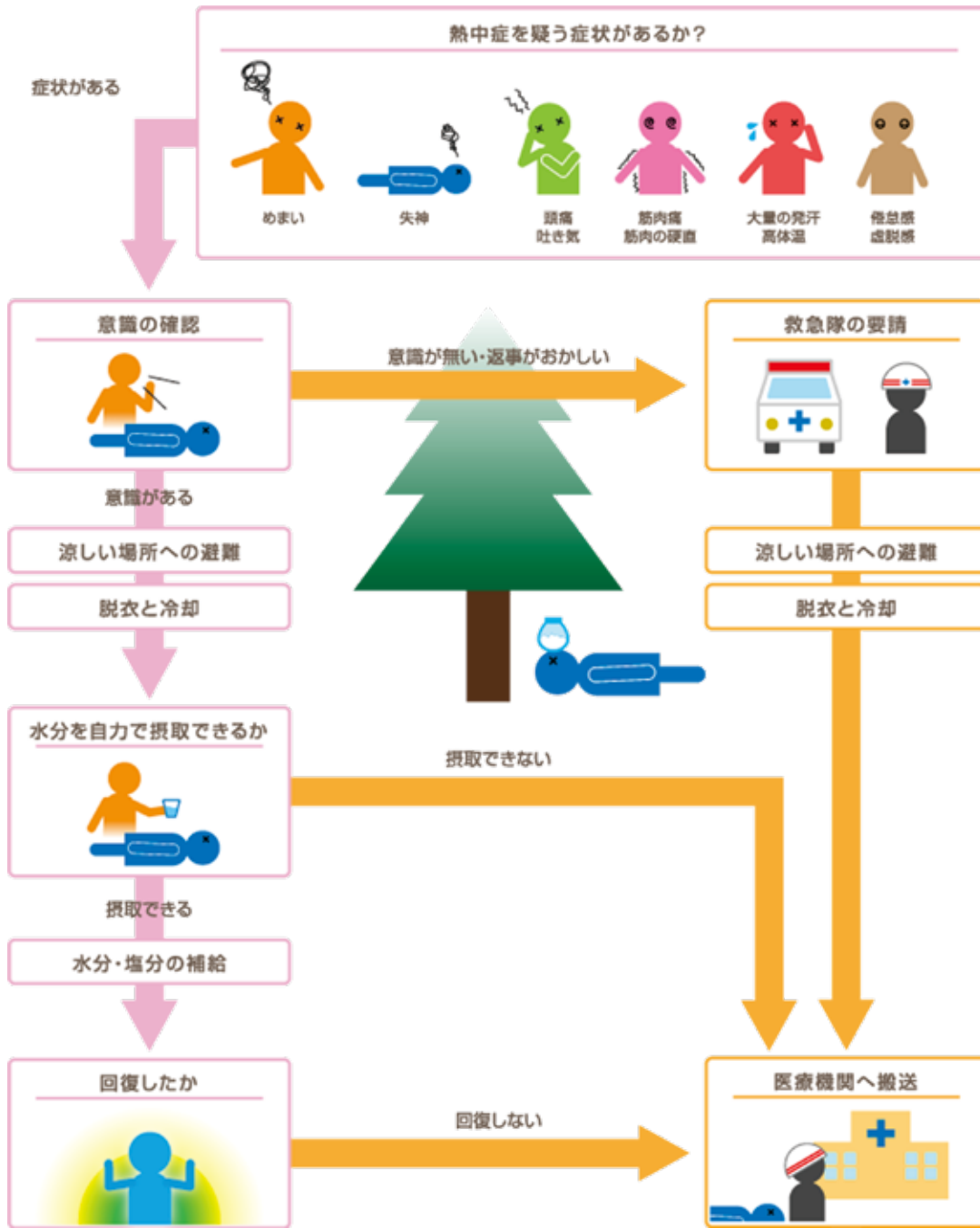


夏本番・熱中症を未然に防ぐ

熱中症におけるフローチャート



地球温暖化による気温上昇に伴い増加している、熱中症。昨年、熱中症で病院に運ばれた患者は、全国で1万人を超えています。都市部だけでなく、地方山間部でも熱中症患者は増えており、症状によっては命の危険性があります。

そもそも熱中症は、温度の高い環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体内の調節ができなくなったことで発症する障害のことです。めまいやけいれん、意識障害などの様々な症状があり、屋外だけでなく、屋内でも発生しています。

農家にとっては、梅雨明け後の蒸し暑い日など、暑さに慣れていない時に発症しやすい傾向があります。また、休憩や水分を取らず長時間作業した場合、日差しの強い日に帽子をかぶらず作業した場合、ハウスで十分な換気しない状態で作業した場合などに、発症した事例があります。

上の図は、実際に熱中症にかかった時の、処置方法を簡単にまとめたものです。